

# 取材 学校統廃合は進む

佐渡市教育委員会に聞く

吉田 武雄

全島が一つの市になって学校統廃合計画が進んでいる佐渡市の渡邊教育長、児玉学校教育課長にお聞きしました。

なる計画です。通学に困難な地域では小学校と中学校が連携校とし、一人の校長が運営します。これは長岡市太田小中学校をモデルにしています。

一 合併後五年を経過して学校の統廃合はどこまで進行していますか

平成一八年九月策定の「佐渡市保育園・小学校・中学校統廃合計画」に基づき、進めています。前期及び後期の六年ずつのプランで、まず前期は二三年度までに複式学級の解消を目指しています。一九年度に小学校四校が統合しましたが、これは合併する以前からの懸案事項でした。その他の前期統廃合対象校については、学区の皆さんと話し合っているところです。

二九年度の最終的には小学校は三六校一校が三三校に、中学校は一六校が六校に、小中連携校が四校に

二 進行している理由、進行していない理由について  
基本的な考え方を理解してもらうために、話し合いを通して進めていかなければなりませんから、時間がかかります。統合によって、大勢のなかで子どもたちが社会性が身につくなど、複式解消には多くの人が理解を示しています。ただ地域から学校がなくなることは、コミュニティの核となる施設がなくなるのではとの意見もあり、地域の存続とも関わって慎重に話し合いが行われています。

三 児童・生徒の通う上での問題点について

通学距離はスクールバス等で小学生はおおむね三分、中学生は五〇分程度を目安とします。基本的には路線バスを使用してもらいます。それが通っていないところはスクールバスで対応します。

四 子どもたちの成長発達過程にとつて、統廃合はどのような影響を受けるとお考えですか

一般論になりますが、適正規模の学校になることの利点が大きいと考えます。より多数のなかで切磋琢磨し、社会性やコミュニケーション力が強まるとみえます。複式学級や小規模学級で、きめ細かく指導される効果を認めながらもそのように考えます。

五 すでに起きている子どもたちの問題とその対処について。また、これらの問題について、今言えることと、その対処について

統廃校が未だ少ないこともあって、特段に問題が起きているとは聞いていません。

統合よつて、集団生活にうまく適用できないのではないかと親の心配もあり、統合する学校間の子どもたち同士が互いになじむように学校行事等で交流を図っており、教師の異動にも配慮してもらえよう県に要望しております。

六 統廃合による教育費の父母負担について

具体的に調査はしていないので未だ分からないのが実情です。バス通学については定期券を支給しています。

七 これまで、地域の住民と子どもたちの間でコミュニケーションが存在してきました。その効果についてどのようにお考えですか、統廃合によつて、これがなくなることにについてどのように思われますか

佐渡は地域に伝統芸能が豊富にあります。おんでこ歌舞伎、浄瑠璃など地域の人達が子どもに教えてきました。こうした佐渡の伝統文化を子どもたちに伝えていくことは大変重要だと考えています。

通学時間が増えて、そのため教えてもらう機会がなくならないように、土日の活用など地域の人達と協議していきたいと考えています。

九 その他

複式学級の解消が一つの目的になっていますが、複式で効果を上げている面もあります。ただ社会科や理科では教わる順次性がずれることが起きてしまいます。また余りに少人数のクラスは、切磋琢磨の面から望ましくありません。

## 佐渡市の保護者は統廃合を

### どう受け止めているか

小倉小学校の

畑野小学校への統合について

く小倉小学校の保護者にきくく

・保育園・小学校の統合についての説明会は、昨年3回ありました。昨日（5月27日）、小倉地区の保育園は今年度限りで閉じるという報告を受けました。

・小倉小学校と畑野小学校との統合には、PTAとして反対はしていません。統合する条件として、通学用のスクールバスか、路線バスを要望しています。その方針を明らかにすると言っていますが、未だ決めていないようです。当局との口約束だけでは、話し合いには応じられない。確認書を交わしたいと考えています。子どもの家からバス停まで何メートル離れているかも検討課題です。何よりもスクールバスが先決の問題です。福祉バスを路線バスに変えようとする動きもあります。生徒数が少ないからいずれば統合するだろうけ

れども、一方的に押し付けられるのは、ご免です。

・市のすすめる統合の理由を聞くと、お金がないからとは言わずに、子どもたちの教育効果が上がると説明します。私はそんなことはない、学力が上がるとか下がるとかは簡単に言えず、統合による教育効果があるというのは子ども自身が決めることだと思っています。

また、小学校をなくすことは、過疎化を促進します。水洗便所もあり、施設として十分利用できる小倉小学校を過疎化につながる統合をすすめる一方で、地域づくりとなる小倉地区の千枚田を造成しているのです。

・地域の諸行事は学校だけでは実施できないので、これまで地域が学校を支えてきました。統合すれば鬼太鼓などやれなくなる心配があり、子どもに郷土に対する愛着心がなくなる恐れがあります。このような伝統芸能は、是非残していきたい。統合する学校での月1回の土曜日の練習には、バスでの送り迎えが必要になります。佐渡市は、ケーブルテレビにお金をかけているが、それよりも子どもの教育に注いでもらいたいのし、しわ寄せを子どもに負わせるのかといたいのです。

## 西三川小学校の 真野小学校への統合について

～平成22年4月から～

～西三川地区の保護者にきく～

・佐渡市教育委員会は、21年4月に建設予定の「真野小学校」へ西三川小学校および分校との統合をすすめるため、19年1月から地域や保護者等を対象に説明会を開き、1年間で20数回持ちました。これは、説明会やPTAから出された疑問に、当局が答え、当局との確認（文章化も含む）を取る作業や、さらに、保護者自らの学習会を開いたのです。その中心的課題は「地域から学校がなくなつて子どもや地域にとって本当にいいのか」でした。

・真野小学校は、戦後建てた古い校舎で、生徒と職員が一緒の玄関で、地震にも弱くいわゆる「危険」校舎です。合併前から、改築は必要とされ、「合併して18年には改築する」と約束していました。

当局は、統合が決まれば、校舎建築の補助金が増え、

教室増となることから、19年12月まで結論を出すよう働きかけてきました。

・西三川地区のPTAを中心とした保護者等は、アンケートをとるなど、最終的には「統合しない」との結論となつたのです。それは、統合問題について、先に述べたように何回も学習会を開き、統合の是非について議論を重ねたからだと思えます。統合しない理由として、私たちの気持ちを代弁する一文を紹介します。

### 「心を育む教育を大切にしたい」

学校は子どもひとりひとりの学力を伸ばし学ぶことの楽しさを教えるところ。忙しすぎる詰め込み教育への弊害が言われて久しく、落ちこぼれ、いじめや自殺・たくさんの問題を抱えています。

子どもにとって「学び」が「喜び」である環境を整えることが何より大切。それは、立派な校舎や最新の設備・機械類ではありません。

その子なりの力を最大限に引き出すためには、いねいな対応が不可欠でしょう。教師との信頼関係をしっかりと築いた子どもは安心して学べるのではないのでしょうか。

ひとりひとりに目を配りていねいな対応が可能で、上下級生と近く接することで縦の人間関係も学べるというのも小規模校のメリット。

学校を含む地域全体が子どもにとって身近な社会として機能しています。学校が遠くなり通学に時間・労力を浪費することによって、その大切な社会とのつながり（社会性）が薄くなる心配がありません。

競争優先の教育がはじめ、落ちこぼれ等のゆがみを生み出しているいまこそ、心を育む教育を大切にしたいところです。

選択の余地なく大規模校に通わなければならぬい都會の子どもからすれば、うらやましがられるかも知れない恵まれた状況をあえて壊す必要があるのでしょうか。

（一母親より）

このように、保護者たちの間では、結論を求められる12月の期限に合わせて「統合しない」との結論を出していましたが、教育委員会や市当局のよりいっそうの説得もあつて、保護者でも意見が分かれ、地域

（集落）の意見が「統合する方向」であったことから、今年1月、地域（集落）の会合で統合することに決まりました。

今年に入り、真野町の西三川地区では、「西三川小学校および同笹川分校は、2年後（平成22年度）に真野小学校に統合する、保育園は民営化で」という内容の説明会が開かれました。

これを受けて西三川地区の検討委員会を立ち上げ、（六集落から各2人、PTA、保育園、笹川分校からそれぞれ2人ずつによる構成）。第1回の検討委員会で正式に統合することになりました。その後、PTAの総会を開き、要望として①スクールバスによる通学②真野小学校にバス等の待合場所を設ける③西三川小学校から真野小学校へ教員の交流と配置を、が出され、これらの条件がそろえればということになりました。

